

令和3年度熊本大学附属図書館オンライン貴重資料展

廃藩置県と熊本藩

同時開催

公開講演会・第15回永青文庫セミナー

演題① 熊本城廃棄申請書の

成立事情と「御城拝見」

講師 三澤 純

(熊本大学大学院人文社会科学部(文学系) 准教授)

演題② 廃藩置県後の

旧藩主細川家と旧藩士

講師 今村直樹

(熊本大学永青文庫研究センター 准教授)

藩ヲ廢シ縣ヲ被置候事

辛未七月

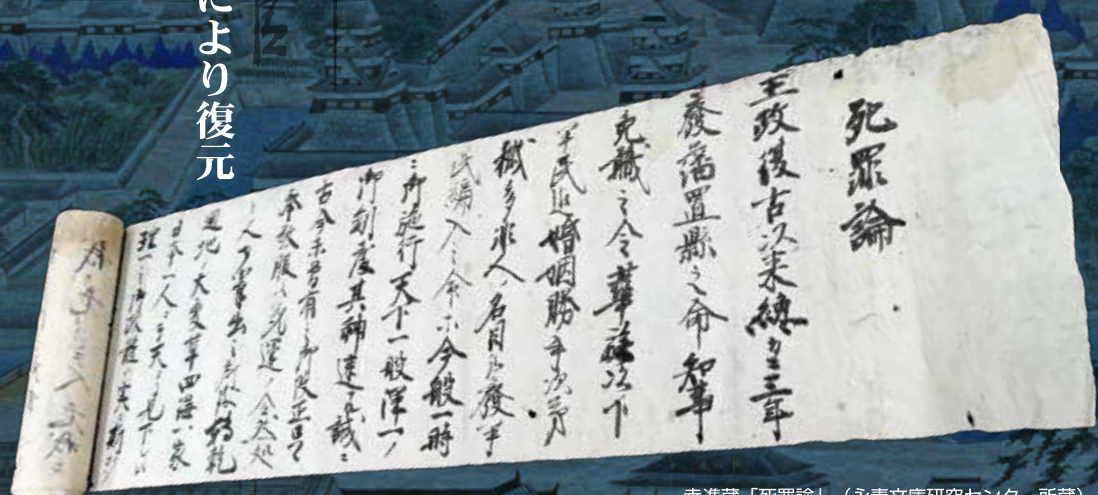
太政官

廃藩置県から一五〇年目の今年、巨大な転換期を貴重資料により復元

触れることのできない古文書を

ページをめくるように観覧(一部)。

オンラインならではの試みです



幸準蔵「死罪論」(永青文庫研究センター所蔵)

開設

熊本大学附属図書館ホームページ特設サイト「オンライン貴重資料展」

公開URL: <https://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/about/events/onlinekichoshiryo/r3>



令和3年10月27日(水)から公開

公開講演会/第15回永青文庫セミナー動画は、公開日近日中掲載

熊大 オンライン貴重資料展

検索

クリック

共催 熊本大学附属図書館・熊本大学永青文庫研究センター
協力 公益財団法人永青文庫
後援 熊本県教育委員会・熊本市教育委員会・熊本日日新聞社・NHK 熊本放送局・RKK・TKU・KKT・KAB



廃藩置県と熊本藩

本年は、明治4年(1871年)7月の廃藩置県から150年目にあたります。廃藩置県は、地方分権的な幕藩体制から中央集権的な明治国家体制に変わる重要な画期となりました。しかし、当時の人びとは廃藩を必ずしも予想しておらず、とくに先進的な藩政改革を行っていた熊本藩では、その受け止め方をめぐり複雑なものがありました。熊本藩の改革はどのような実績をあげたのか。廃藩後の旧藩主細川家や旧藩士の動向はいかなるものだったか。本展覧会では、巨大な転換期の状況を古文書から明らかにします。



「熊本城廃棄意見書」明治3年9月(永青文庫)

本意見書で、熊本藩知事・細川護久は、新しい時代の到来に際して、「宏壯西陲ノ雄」と称されてきた熊本城を廃棄する覚悟があると宣言した。これが『改訂肥後藩国事史料』(1932年)に収録されて以来、熊本の地域史や全国的な城郭史の研究ではもちろん、明治維新史研究でも広く知られる史料となった。しかし、今回の貴重資料展のための調査により、本意見書には、これまで全く知られていなかった「前史」と「後史」とが存在することが分かった。これらを正確に跡づけて、廃藩置県直前における熊本藩首脳部の政治的意図を再考してみたい。

「死罪論」明治4年(幸家文書)

旧熊本藩士の幸準蔵による意見書の草稿。廃藩直後の明治4年8月末から同年11月までの間に作成され、明治政府やその要人に宛てて書かれたものとみられる。幸は、廃藩置県を「古今未曾有の御改正」と称賛しながらも、全国の知藩事(旧藩主)を一律に免職し、長年にわたる旧藩士との主従関係を断ち切る措置を痛烈に批判する。大減税政策などの藩政改革を行った旧熊本藩知事細川護久の実績を主張し、護久の県知事就任を強く訴える。廃藩置県に対する旧藩士の批判的反応を示した史料として、全国的にも貴重な存在である。

永青文庫とは

「永青文庫」は、かつて熊本藩主であった細川家に伝来した美術品や文学作品の写本、そして歴史資料(古文書・古記録)等を所有・管理する財団の名称です。これらの品々のうち、細川家北岡邸(熊本市)の倉に保管されていた数万点の歴史資料や写本が1964年に熊本大学へ寄託され、現在まで附属図書館(中央館)で管理しています。

附属図書館支援事業

～熊本大学基金へのご寄附のお願い～

令和3年度から、熊本大学基金に附属図書館支援事業が新設されました。ご寄附をいただけましたら、図書館を通じての学生サービスや社会貢献を十全かつ迅速に行うための事業に活用させていただきます。みなさまのご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

〈寄附の用途〉

文化育成

熊本大学
東光原文学賞

学修支援

学生希望図書
購入と整備

環境整備

主体的・対話的
学びの場の充実

社会貢献

貴重資料
保存と公開

【熊本大学基金】附属図書館支援事業

<https://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/news/4672>

熊大基金 図書館

検索



問い合わせ

熊本大学附属図書館

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40-1

096-342-2212

<https://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/>



熊本大学附属図書館公認キャラクター
「くまぼん」